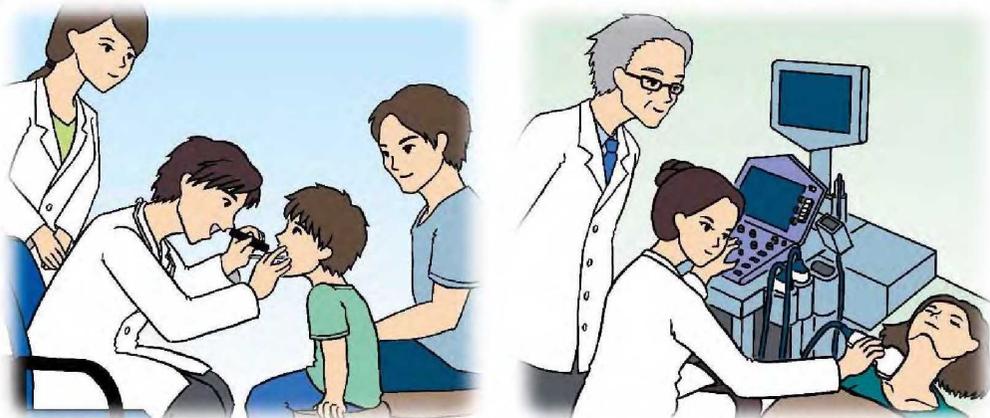


当院では 将来の医療を担う医学生 が臨床実習を行っています



よい医師になるためには、講義だけでなく、診療チームの一員として実際の患者さんを診療し学ぶこと（臨床実習）が必要です。

臨床実習を開始する前に修得すべき知識と技能を評価する「共用試験※」を受け、これに合格した医学生が、医師の指導監督の下、臨床実習を行っています。

医学生が医師となるために必要な知識と技能を修得できますよう、ご理解とご協力をお願いします。

※共用試験：国が医師法等に基づき指定した公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する学科と実技の試験

お気づきの点がございましたら、患者相談窓口等にご相談ください。

■実習に必要な知識と技能を評価する共用試験に合格した医学生（臨床実習生）は、医師法に基づいて、医師の指導監督の下、下記の医行為を行っています。

■医学生の同席や面接、診療などを希望されない方は、担当医にお申し出ください。



医師養成の観点から医学生が実施する医行為の例

分類	【必須項目】医師養成の観点から臨床実習中に実施が開始されるべき医行為	【推奨項目】医師養成の観点から臨床実習中に実施が開始されることが望ましい医行為
診察	診療記録記載（診療録作成）、医療面接、バイタルサインチェック、診察法（全身・各臓器）、耳鏡・鼻鏡、眼底鏡、基本的な婦人科診察、乳房診察、直腸診察、前立腺触診、高齢者の診察（ADL評価、高齢者総合機能評価）	患者・家族への病状の説明、分娩介助、直腸鏡・肛門鏡
一般手技	皮膚消毒、外用薬の貼付・塗布、気道内吸引、ネブライザー、静脈採血、末梢静脈確保、胃管挿入、尿道カテーテル挿入・除去、注射（皮下・皮内・筋肉・静脈内）、予防接種	ギプス巻き、小児からの採血、カニューレ交換、洗腸
外科手技	清潔操作、手指消毒（手術前の手洗い）、ガウンテクニック、皮膚縫合、消毒・ガーゼ交換、抜糸、止血処置、手術助手	膿瘍切開、排膿、嚢胞・膿瘍穿刺（体表）、創傷処置、熱傷処置
検査手技	尿検査、血液塗抹標本の作成と観察、微生物学的検査（Gram 染色含む）、妊娠反応検査、超音波検査（心血管）、超音波検査（腹部）、心電図検査、経皮的酸素飽和度モニタリング、病原体抗原の迅速検査、簡易血糖測定	血液型判定、交差適合試験、アレルギー検査（貼付）、発達テスト、知能テスト、心理テスト
救急	一次救命処置、気道確保、胸骨圧迫、バックバルブマスクによる換気、AED	電気ショック、気管挿管、固定など整形外科的保存療法
治療	処方薬（内服薬、注射、点滴等）のオーダー、食事指示、安静度指示、定型的な術前・術後管理の指示、酸素投与量の調整、診療計画の作成	健康教育

参考：令和4年度改訂版 医学教育モデル・コア・カリキュラム 診療参加型臨床実習実施ガイドライン

「良医」育成のため、皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。